

.....

うきたむ考古通信

.....

2016年12月号

■発行者	うきたむ考古の会
事務局	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内 〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117 電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

👁️企画展記念講演会から

平成 28 年 11 月 13 日(日)に平成 28 年度の企画展「森と暮らせばー縄文時代の植物利用ー」のテーマに沿った記念講演会が開催されました。

講師は東北大学名誉教授の鈴木三男先生で「縄文人がつくったふるさとの森」の演題でお話しをいただきました。鈴木先生は 1947 年に福島県白河市に誕生し、1976 年に東京大学農学研究科(林学)を修了後、東京大学や金沢大学で教鞭を執られ 1994 年に東北大学理学部に赴任され、大学院理学研究科教授、附属博物館園長などを歴任されました。

ご専門は植物系統学、植物解剖学、古植物学で、中でも木材組織の比較解剖学の分野で大きな業績を上げられました。中生代白亜紀、新世代第三紀および第四紀の木材化石から現生樹木の木材まで広く扱い、白亜紀の被子植物の起源群の木材構造の特性の解明、日本の第三紀の広葉樹木材化石フローラ、木材化石群集による第四紀の古植生の復元と人間の木材利用など、化石の研究を進める一方、ヒマラヤ地域、オセアニアの樹木の木材構造の解析により南北両半球での木材構造の進化を追っておられます。

また、日本の各時代の遺跡から出土した植物遺体の研究で考古学界では著名で、山形県では今回の企画展の一つの柱である小山崎遺跡の調査指導委員を務められ、発掘調査と報告書作成に携わっていただくとともに、押出遺跡から出土した樹皮にも大きな関心を寄せられ、新しい成果を上げられています。

そして、2008 年から 2014 年まで山形県文化財保護審議委員を務められ、最上では舟形町の「猿羽根楯跡の親杉」、村山では西川町の「大井沢の大栗」、置賜では白鷹町の「古典サクラ群」、庄内では遊佐町の「永泉寺のハリモミ」の巨木の指定に御尽力いただきました。

代表的な著書は『日本人と木の文化』八坂書房があり、この 12 月には『クリの木と縄文人』が同成社からの刊行が予定されています。

講演会は雲一つない快晴のなか、冬支度に絶好の日和となったため出足が不安視されましたが、会員の皆様をはじめとする多くの方に参加いただきました。企画展セミナーで 10 月 23 日に吉川先生ご夫妻にお話しいただいた「食」を除く縄文時代の植物利用の実態につ

いて、お話しいただきました。

土木材としての利用では押出遺跡が他の遺跡と大きく異なるとのお話がありました。柱（杭）や根太材の約半数は恐らくヤチダモと考えられるトネリコ属で、約4分の1がヤナギ属となっており、これらの木々は縄文時代前期の米沢盆地の平野部に繁茂していたもので、前期人はこれらの木を切り出し、打ち込み、土盛りをして土地を造成していたと考えられるとのことでした。恐らく低湿地に立地するという押出遺跡の特殊性が土木材利用にも他の遺跡にない利用形態を示しているのだろうということでした。すなわち、広大な低地帯に立地していることで、少量存在するコナラやクリが生育する丘陵地までの距離が遠く、そこから必要量を運搬することより、仕方なしだったかも知れないがヤチダモやヤナギといった遺跡近傍に大量にある材を使ったのではないかとの可能性を示されました。

一方小山崎遺跡は東北日本の利用状況と軌を一にし、クリ材の利用率が極めて高いという結果が得られているのは、出土地点が水辺の遺構という低湿地でも隣接する背後の山地に利用価値の高い土木材が豊富にあったからと説明されました。

押出の木製品の樹種は盤や皿はケンポナシ属、クリ、トチノキ、ケヤキが、篋状木製品はマツやスギが使われた。ただし、弓の材がヌルデとされたのは何かの間違いかと思うとのこと。樹皮製品のなかで「袋状樹皮製品」は他に類例のないもので、一昨年の再調査の結果、これがカバノキ属の外樹皮（コルク層）を10枚以上も重ねて二つ折りにして綴じたものあることが分かったということであった。また、少なからず出土している樹皮はサクラ属とカバノキ属の外樹皮、即ち桜皮と樺皮で縄文人が何らかの目的で樹木から剥がし取っておいたものか、使い終わった残りを廃棄したもので間違いなく縄文人の手によるものであるということ強調された。

縄文時代早期からの出土が知られている編みカゴ、敷物などの編組製品はさらに古くなる可能性をもっているとのことで、縄文時代の非常に早い段階から縄文人は植物素材を編み組みして様々な用途に利用してきたと考えられるのだが、その素材植物はなんであるかは近年まで全くと言って良いほど知られていなかったということです。三内丸山遺跡のいわゆる縄文ポシエットがヒノキ科（恐らくはヒバ）の樹皮製であることが分かったのは最近ということでした。

編み籠が数百体出土したことで有名な佐賀市の東名遺跡では、これらの素材が徹底的に調べられました。その結果、大多数のカゴ編みの主要素材はムクロジとイヌビワという樹木の木材のへぎ材で、現代からは考えられない驚くべき結果が出ているとのことです。現代の民俗事例に伝わっていないもので、これらを素材として使う文化伝統は縄文時代後期の北九州の遺跡にはすでになく、現代への継承が早い段階で途切れていたとのことです。

また、縄文時代の編組製品に利用された植物種には「奇異」と思えるものが少なくなく、特に「根」の利用には驚かされたということでした。縄文時代後期の福岡県久留米市の正福寺遺跡ではウドカズラの気根できた筧があり、晩期の秋田県戸平川遺跡、青森県川原平遺跡の笹ヒゴとスギの根の木材で作られた編物のカゴがあり、縄文人は目に付いたものを何でも使ってみたのではないかと思えるほどということでした。

藁縄、麻紐は近年まで主として使われ続けたが縄文時代の縄紐は何を素材としていたか。縄紐の出土も縄文時代早期に溯るが、早期の東名遺跡と前期の福井県鳥浜貝塚で多くの縄紐が出土しているが、それらの素材は「シダ類の葉柄」が大部分であったということでした。このシダは東～東北日本ではオシダ科のリョウメンシダが使われ、西日本ではワラビ等のシダ類が使われたということです。その他ヤマブドウの樹皮、マタタビ属やツヅラフジの蔓、カバノキ属、サクラ属の外樹皮、シナノキやニレ属の樹皮繊維、アサ、カラムシ、イラクサ科などの繊維などの出土例があり、縄文時代から既に多種の素材を活用していた

ことが分かるとのことでした。ちなみに押出の縄はカバノキのコルク質が利用されているとのことでした。

漆が日本在来の植物ではなく、大陸から渡来したものであるというのは植物学の「常識」ということです。しかし、世界最古の漆製品は約 9000 年前の縄文時代早期の北海道函館市にある垣ノ島 B 遺跡の被葬者の朱漆塗りの装身具で、その後、縄文時代を通して押出遺跡や小山崎遺跡などの東～東北、北海道で多量で多彩な漆製品と漆用具の出土が知られています。最近、鳥浜貝塚で出土していた材の再調査が行われ、ウルシとされていた植物化石が本当にウルシなのか、そして、その年代がいつなのかについて結論が出されました。その結果、間違いなくウルシの木材であり、その年代は約 12600 年前の縄文時代草創期、爪形式期であることが確かめられたとのことでした。

縄文人は弓、掘り棒、ヤス、柄などの道具類に低木のムラサキシキブ、イヌガヤ、マユミ、ガマズミ、ノリウツギ、ヒョウタンボク属などの丸木棒を多用しているが、これらは、「原生林」にはほとんどなく、縄文人がムラの周囲に伐り開いた二次林で「育成管理」することによって、必要な用材を得ていたと考えるのが妥当だろうということでした。

そして、最後に「縄文人がつくったふるさと森」についての見解を披瀝されて結ばれました。縄文人は森を伐り開いてムラをつくり、定住するようになると、ムラの周囲を「管理」するようになった。ムラの直ぐ外側でヒエ、アサ、ゴボウ、ヒョウタンなどを栽培する畑とし、その外側にクリやウルシの植栽を行い、さらにその外側では二次林が再生し、萌芽再生が得意なコナラやサクラ、ケヤキ、シデ類、カエデ類などが盛んに成長する。縄文人に有用な低木類は二次林によく発生するが、縄文人は目的に合った株を選抜して育成管理を行っていた。また、二次林は山菜、ヤマユリ、自然薯など有用植物が生えやすい。

ムラから離れた所は木の実やイモ類、蔓植物素材など採取する「自然林」があり、奥地の原生林は、主に狩りの場で、植物質の利用は薬草などの特別なもの、特別な樹種とサイズを必要とする木材などを得るためだけにあったのだろうということでした。

考古資料館主催事業報告

♥平成28年度体験学習を終えて

今年度は例年実施している体験学習に加え、夏休み中に「スクールオブジョウモン」そして、12月には久方ぶりに「あんぎん(編布)をつくろう」を開催しました。

○「弓矢・勾玉・石器をつくろう」

参加者	5月21日(土)	67名(前年度 51名)
	8月6日(土)	21名(前年度 74名)
	11月3日(木・祝)	71名(前年度 50名)
合計		159名(前年度 175名)

○「ガラス玉をつくろう」

参加者	6月18日(土)	6組16名(前年度 6組16名)
	12月3日(土)	12組30名(前年度 8組20名)
合計		18組46名(前年度 14組36名)

○「古代風ブレスレットをつくろう」

参加者	6月20日(土)	37名(前年度 37名)
	11月3日(木)	33名(前年度 8名)
合計		70名(前年度 45名)

○「スクールオブジョウモン」

参加者 8月11日

7名(前年度0名)

○「あんぎん(編布)をつくろう」

参加者 12月3日

5名(前年度0名)

「弓矢・勾玉・石器をつくろう」は例年参加者が最も多い夏休み期間の8月6日がリオオリンピックの開会式と重なったこともあり、前年度実績を大きく下回りましたが、他の事業は昨年度実績を上回りました。今年度から開催した事業は宣伝不足が否めなかったようです。

来年度も新たな事業へのチャレンジも含め、積極的に取り組んでいくつもりですので会員の皆様にも、お子様、お孫さん連れで是非ご参加下さい。

展覧会の案内

👁️ テーマ展 **古墳時代から中世の考古資料** 開催中

12月4日で終了した企画展に続き、12月8日から2016年1月にリニューアルオープンし、今年度の特別テーマ展前まで展示しました内容を再度展示しています。常設展からの連続で置賜を中心とするやまがたの古代の歴史を振り返っています。まだ、目にしておられない方もおられるかと思えます。分かりやすくなった展示を是非ご覧下さい。

館共催事業の報告と案内

👤 第X I 期 うきたむ学講座のご案内

今年度のうきたむ学講座は「置賜の歴史と生活をさぐる」をテーマに4回開催の予定です。10月29日(土)に白鷹町で特別講座が開催されました。午前中に宮本先生から塩田行屋を案内していただき、納められた仏像のご解説をいただき、午後から平吹利数氏(白鷹町文化財保護審議会)による「野仏に秘められたものP II」、引き続いて、宮本晶朗氏(白鷹町文化財保護審議会)による「塩田行屋の仏像とその由来」と題しての講演が行われました。山形考古学会と日程が重なったため参加者は10名と多くはありませんでしたが、内容の濃いものとなりました。

続いて1月15日(日)には「伊達時代の置賜」米沢市の館山城跡が国の史跡に指定されたことを受けて、館山城を整備した戦国時代の伊達氏と城郭・城下町について最新の調査成果を踏まえ、今野賀章氏(福島県伊達市教委)による「伊達氏のふるさと梁川城」、宮田直樹氏(米沢市教委)による「伊達時代の米沢」の講座が開催されます。寒い時期ですが、話題はホットですので是非足をお運び下さい。

また、2月12日(日)には「置賜の産業 焼き物編」として高橋 拓氏(飯豊町教委)による「近世置賜の窯跡」、渡辺芳郎氏(鹿児島大学)による「江戸前期の地方窯業」の講座が開催されます。近年の発掘調査でその存在が確認された飯豊町の近世窯跡を中心に置賜地方の焼き物の歴史を明らかにすることによって、これまであまり知られていなかった置賜地方の窯業を解明し、人々の生活に密接な焼き物の歴史理解を深めることを目的としています。なお、講座に先立ち県内で出土した近世陶磁器について渡辺先生から解説していただきたいと考え、準備を進めるつもりです。

今講座の最後となる3月5日(日)には「置賜の生活」と題し、阿部宇洋氏(公財 農村

文化研究所)による「戦前・戦中の置賜の民俗」、伊藤義隆(氏(川西町文化財保護協会)による「川西町の石造物」と題した講座を実施いたします。

👤 2016年度山形の考古資料検討会のご案内

例年同様、今年度も山形考古学会と共催で開催いたします。今年は(公財)山形県埋蔵文化財センターの発掘調査が置賜の4遺跡で実施されたほか、米沢市教育委員会による2ヶ年計画の大規模発掘調査が実施されるなど、新たな資料が蓄積されてきています。

今年度は下記の要項で開催いたします。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

1. 事業名称 山形の考古資料検討会
2. 開催期日 平成29年2月5日(日)午後1時から午後4時30分
3. 開催趣旨 平成28年度に県内で行われた発掘調査やこれまでに発掘された資料について関心を高めるとともに、考古学の進展、文化財保護の気運の醸成をはかることをねらいとして開催するものである。
4. 会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室
5. 主催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
6. 共催 山形考古学会
7. 内容

【基調報告】(報告20分・質問5分)

「2016年県内の発掘調査の概要」

山形県教育庁文化財・生涯学習課 竹田純子 氏

【調査報告】(順不同)(発表20分・質問5分)

- | | | |
|---------------------|--------------|--------|
| 「壇山古窯跡群」(川西町) | 山形県埋蔵文化財センター | 天本昌希 氏 |
| 「八幡西遺跡」(川西町) | 山形県埋蔵文化財センター | 菊池玄輝 氏 |
| 「馳上遺跡8次」(米沢市) | 山形県埋蔵文化財センター | 渡辺和行 氏 |
| 「大南遺跡」(米沢市) | 米沢市教育委員会 | 佐藤智幸 氏 |
| 「日向洞窟西地区遺跡」(高島町) | 東北芸術工科大学 | 長井謙治 氏 |
| 「日向洞窟遺跡範囲確認調査」(高島町) | 高島町教育委員会 | 井田秀和 氏 |

東北情報館



日本遺産認定記念企画展 『出羽三山—生まれかわりの旅—』

入館料 一般／300円 学生／150円 高校生以下無料
12月17日～3月12日 山形県立博物館 TEL: 023-645-1111



コレクション展 『上杉鷹山と学びの時代』

入館料 一般／200円 高校・大学生／100円 小・中学生／50円
12月10日～2月12日 米沢市上杉博物館 TEL: 0238-26-8001



企画展 『歴史の扉—街道と海道—』

入館料 一般／700円 学生／380円 小・中学生／280円
1月27日～3月1日 致道博物館 TEL: 0235-22-1199



『最上家とみやびの文化』

入館料 無料
9月14日～1月22日 最上義光歴史館 TEL: 023-625-7101



開館20周年記念 『新潟県指定考古資料展』

入館料 無料
7月16日～1月22日 新潟県埋蔵文化財センター TEL: 0250-23-1142



『世界遺産 ラスコー展』

—クロマニヨン人が残した洞窟壁画—

入館料 一般・大学生／1600円 小・中・高校生／600円
11月1日～2月19日 国立科学博物館 TEL: 03-5777-8600